

2023 年 1 月 6 日 第 3414 回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 前田 会長
 <斉 唱> 「君が代」「奉仕の理想」 ソングリーダー 佐久間博一 会員
 <唱 和> 「四つのテスト」
 <ゲスト紹介> *公益社団法人横須賀青年会議所 理事長 高橋 慶光 様
 副理事長 齋藤 元一郎 様
 専務理事 須藤 未喜 様

*米山奨学生 王 冠博 様
 <誕生月祝> *江沢 暁彦 (S.16. 1. 1) *比護 友一 (S.46. 1. 4)
 *小佐野 圭三 (S.19. 1. 5) *福西 美子 (S.12. 1. 5)
 *鈴木 豊司 (S.48. 1. 8) *南 裕貴 (S.62. 1.20)
 *永井 信年 (S.59. 1.22) *齋藤 秀人 (S.42. 1.24)
 *曾我 宗光 (S.45. 1.26) *鈴木 孝博 (S.41. 1.27)
 *小保内 洋子 (S.45. 1.27) *飯塚 進一郎 (S.25. 1.28)
 *野坂 英八 (S.24. 1.29) *中村 清乃 (S.43. 1.31) 各会員

<入会月祝> ・三堀 孝夫 会員

<会長報告> *ガバナー事務所よりロータリー奨学生帰国報告会のご案内について
 2月18日(土) 14:00~15:30 奨学生帰国報告会
 15:40~17:00 懇親会

<幹事報告> *理事役員会報告(1月16日)
 ・6月9日 卓話で奉仕の基金コンペティション5団体の発表を予定しています。
 ・1月13日 夜間例会開催
 ・2月10日の100%出席例会について
 ・親睦旅行について 3月31日~4月1日(京都を予定)
 ・年忘れ家族会の決算について承認を受けました。

<奨学金授与> *米山奨学生 王 冠博 さんへ

<委員長報告> *雑誌委員会 臼井委員長よりロータリーの友1月号

*出席委員会 田村副委員長より12月出席報告 12月分平均出席率 73.87%

	会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
12月2日	115名	101名	80名(11名)	21名	1名	80.20%
9日	115名	104名	65名(9名)	39名	8名	70.19%
16日	115名	108名	73名(5名)	35名	4名	71.30%
23日	115名	103名	75名(名)	28名	1名	73.79%

<出席報告> *出席委員会 田村副委員長より1月6日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
115名	107名	78名(5名)	29名	4名	76.64%

<ニコニコ報告>

・比護、石田、高橋、八巻、鈴木(働)、澤田、山下、臼井、猿丸、大野(働)、吉田、宮島、上林、齋藤(働)、齋藤(働) 各会員

益社団法人横須賀青年会議所理事長 高橋慶光様、副理事長 齋藤元一郎様、専務理事 須藤未喜様、米山奨学生 王冠博様ようこそ横須賀RCにお越しくださいました。

本日の新春例会を最後までお楽しみください。

・江沢、比護、小佐野、福西、南、鈴木(働)、小保内、飯塚、中村(働) 各会員 誕生月祝いとして
 ・臼井 会員 誕生月祝い(12月)として

- ・三 役 明けましておめでとうございます。本年も皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。新年年男卓話楽しみにしております。
- ・梁 井、児 玉、椿、大野 勲、南、岡田 圭、大 石、松本 明、田 中、八 木、上 田、高 橋、八 巻、畑、福 西、田 村、中村 勲、澤 田、杉 浦、若麻績、小 平、新倉 俊、白 井、大野 勲、田 邊、吉 田、小佐野、根 岸、濱 田、藤 村、波 島、上 林、浅 葉、宮 島、松 岡、二 瓶、齋藤 眞、小林 (-)、角 井、小林 勲、齋藤 勲、植 田 各会員
新年あけましておめでとうございます。今年の干支は「癸卯」で、「飛躍」や「向上」の年と言われ、期待が募る年になりそうですね。本日は前田会長、松本明弘会員による年男卓話楽しみです。どうぞ宜しくお願いします。
- ・長谷川、加藤 勲、高 橋、北 村、澤 田、小山 勲、白 井、大野 勲、田 邊、吉 田、前 川、小保内、小山 勲、笠 木、江 沢、加藤 俊、兼 城 各会員
三浦学苑女子バレー部 春高1回戦惨敗でしたが、よく頑張りました！次回の全国出場も期待しています。
- ・上 林 会員 年忘れ家族会ではビンゴの一等が当たりました。こんなことは初めてです。皆様有難うございました。
- ・徳 永 会員 たくさんの方から年賀状をいただきありがとうございます。今年もよろしくお願い致します。
- ・齋藤 眞 会員 クリスマスから正月にかけて交換留学生だったロレーヌが来日しました。1日だけ楽しい日を過ごしました。
- ・前 田 会長 本年もニコニコボックスを宜しくお願いします。

<年男卓話 1>

前 田 長 生 会 長

先ずは昨年の例会運営ならびに奉仕活動に多くのご理解とご協力をいただいた事につきまして、厚く御礼を申し上げたいと思います。昨年12月の中旬に50歳前後の方々3名とゴルフをしまして、ティーショットが私だけ50ヤード近くおいて行かれるものですから、途中から力を込めて振りました。そうしますと何故か彼らと同じくらい飛んで、オーバードライブもありました。面白くなって夢中でやり終えたら、3日後くらいから左脚が痺れはじめまして、整形外科医に診てもらいましたら立派な脊柱管狭窄症という診断をつけられました。30年位の年季の入った結果だろうという事です。中高年には多いようですので、どうかくれぐれも皆様もお気を付けてください。早く手術をして欲しいのですが、ちょっとした検査が追加になったのとコロナの第8波で病床が空かないとの理由でしばらくは不自由な生活を強いられています。手術で中古車を新車並みにレストアして、性能を上げたいと思っていますが、クラブの運営にはご迷惑とならないようにしたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

さて今日は卯年の年男卓話という事で、普段の例会ではあまり口数の多くない私ですが、ご指名をいただきましたので年頭のご挨拶を兼ねてお話をさせていただきます。私は1951年、昭和26年の9月30日に5人兄弟の4番目の長男として新潟市で生を受けました。戦争を知らない世代です。新潟の街は、もとは北前船を中心とした港で栄えた商業の街で、昔から花柳界が盛んで「新潟の街では男の子は育たない」と、武家社会の栄えた長岡の街とは対照的に比較されていたようです。明治44年生まれの子は近郊の地主の息子で、母は代々続いた料亭の娘でした。父は明治の男にしては私と同じくらいに背が高く、戦前はお堅い職業についていたようですが、私の記憶にある父は定職を持たず、昼はいつも広間の真ん中で仰向けになって本を読み、庭いじりをしていました。夜になると入れ替わり立ち代わり友達が訪ねてきてお酒を酌み交わしていました。戦争の話になると口を閉ざして一言も話さず、いつしか子供心に触れてはいけない事だと思ふようになりました。父は私をようやく生まれた男の子として殊(こと)の外(ほか)可愛がってくれましたが、このことがのちに姉たちの猛烈な嫉妬を買うことになりました。



幸いやがて生まれた5歳年下の弟のお蔭でずいぶんと助かりました。愉快で平和な家庭だったと思います。こんな家庭で育った私が医師の道を志した理由について、少しお話をしたいと思います。私が小学校一年生の秋でした。学校から帰って部屋で遊んでいますと、両手にいっぱい紫色の斑点が出ているのに気づきました。慌てて洗面所に行って鏡を見ますと、顔中に無数の斑点が出ていました。母にそのことを告げますと、私の顔を見てすぐに部屋に連れて行き、寝かされました。母はおそらく子供の麻疹(はしか)の類(たぐい)と思ったのでしょう。その日、運ばれた夕食を食べてしばらくしますと、猛烈におなかが痛くなり、七転八倒しました。今でも思い出すのが恐ろしいくらいの痛みでした。近くの開業医に来て診てもらいましたが、その日は痛み止めの注射をうたれ、翌日に近所の街の病院に入院しました。そこでも同じような症状を数回繰り返しても原因がよくわからず、当時はまだ全館木造だった新潟大学附属病院の小児科に入院となりました。入院後は週に2、3度の注射がありました。すでにやせ細った小学生の腕に大きなガラス製の注射器でたつぷりと打たれましたが、そのお蔭でめきめきと病状は回復しました。この注射が当時日本に導入されて間もないステロイドであったのだらうと思います。この太い針の注射は主治医の足立先生が来ると一発で入りましたが、若い先生は漏らすことが多く、若い先生が来ると私は病室の中を走り回って逃げていたのを思い出します。このことを研修医時代に小児外科を廻った時にふと思い出し、私は子供への注射でひどく緊張しました。この時の私の病気は二人のドイツ人医師によって提唱されたシェーンライン・ヘノッホ紫斑病という疾患で、腹部症状を伴うものは現在でも重症型に分類され、当時では死亡例もあったようです。痛かったおなかの中の臓器は紫斑で真っ赤に充血していたのだと思います。現在ではアレルギー性の血管炎が病態とされるもので、私が学生の時に医学書を読んでいて「これだったのか!」と膝を叩いた思い出がありました。この酷く辛い病気から私を救ってくれた色白の優しい足立先生は、小学一年生の私のスーパースターとなりました。のちにこの足立先生は助教授となり、京都大学に招聘されたという話を父から聞きました。3か月ほどの入院を経て退院しましたが、やせ細った小学生は通学する体力もなく、自宅療養ののちにほぼ半年近く遅れて、学校に行きました。その時には、もう既にどういう訳か皆とともに2年生に進級してしまっていて、義務教育の惨さ(むごさ)を教えられました。学校の授業に当然追いついていけない私を毎日のように3人の姉たちが熱心に勉強を教えてくれたお蔭で、3年生のころには通信簿に何個か数字の5が混じるようになり、家で勉強をする習慣が身につきました。それでもなかなか体力は上がらず、みかねた父は近所の外科の開業医で本間先生という方が警察署の道場で子供たちに柔道を教えているのを聞きつけ、週3度の練習に行かされました。この本間先生は後に私の新潟大学の外科の大先輩となる方で、ドクターズ柔道で何度も全国優勝をしていた凄い方でした。この先生も色白で、少し太った優しい顔の大変に大きな方でした。お蔭で私は勉強も体力もめきめきと力がついて、6年生では学校の児童会長になりましたが、5年生の時に大きな事件がありました。

私が5年生の夏の朝に大好きな父が血を吐いて、倒れました。母からは「大丈夫だから、学校に行きなさい」と言われ学校に行きましたが、午前11時頃に先生から「すぐに家に帰りなさい」と言われ急いで家に戻りました。この時の家路の夏の暑い日差しは今でも覚えています。家に着きますと、寝室の真ん中に青ざめた顔色の父が寝ていて、それを囲むように3人の近所の開業医の先生が座っていました。脇には真っ赤に血の付いたタオルと洗面器があり、子供心にも「これは大変だ!」と即座に思い、見回したら柔道の本間先生の顔がありました。先生が一言「大丈夫だよ!」と声をかけて下さり、「本間先生が言うなら大丈夫だ」と安心して、兄弟で私一人だけ学校に戻ったのを覚えています。その日の夕方に父は大学病院で胃を切除する手術を受けました。出血性の胃潰瘍でした。今であれば、胃カメラのクリップで挟んで止血して済みますが、当時はまだ胃カメラも普及していない時代です。この時に、どこから出血しているかもわからない手術を担当してくれた勇氣ある先生が、のちに私の外科の恩師となる若き日の武藤輝一教授でした。

手術の後、父はすっかり元気になりました。これで私の憧れのスーパースターが小児科の足立先生に外科の本間先生と武藤教授を加えたドクター3人になったわけです。こうして私は中学校に進学したころには「自分は医者になるものだ」と勝手に決めていたので、職業選択に迷ったことはありませんでした。3人のスーパースター達が少年の人生に大きな影響を与えたことは間違いのないことでした。大学を卒業して35年間、私は外科医として手術に明け暮れる毎日を過ごしました。まとまった休みは取れず、家族での旅行は決まって伊豆か箱根ばかりでしたが、それでも子供たちはとても楽しい旅行であったと今でも懐かしく言ってくれます。私が60歳になり、横須賀のとある病院を辞めることになりました。全ての病院が機能別の役割を明確にする時期を迎えており、病院にとって負担の大きい外科は中小の病院からは撤退する運命を、私

は既に感じていました。この時、私は病院長として横須賀ロータリークラブの会員でしたので、会員の方々の特に高齢の方が生き生きと家業や会社を経営されている姿を常に近くで拝見していました。老人施設や検診センターの勤務医に就く選択肢は私を決して満足させるものではなく、迷わず開業医を選択しました。したがって私は横須賀ロータリークラブの会員でなかったならば、開業は無かったものと思っています。このころ紹介状を持たないものは病院を受診できないという分業の連携が次第にできつつあり、市内に乳腺クリニックの無い横須賀での開業を決めました。これで胸にしこりを感じた女性の受診難民が無くなればと思います。開業後は苦手な経営をしながらも乳がんを見落とさないよう、自分自身のブラッシュアップを優先し、2年目には最高位のマンモグラフィの読影資格を取得し、現在に至っています。私に医師という職業を選択させた3人のスーパースターたちは既にいなくなりましたが、彼らの後ろ姿を追ってこれからも医師として頑張りたいと思っています。次の卯年の年男卓話では私は84歳になりますが、元気に現役としてこの場に立ちたいものです。私は小学校の児童会長も中学校の生徒会長も一年限りでした。会長という名の付くものはロータリークラブの会長で3度目ですが、これも一年限りです。実に清々しいです。

年度後半のクラブ会長を精一杯務めさせていただきますが、皆様のご理解とご協力なくしては、到底期待される成果は望めません。この事を会員の皆様に切にお願いし、横須賀ロータリークラブの繁栄を願って、年頭の挨拶および年男の卓話といたします。ご清聴ありがとうございました。

<年男卓話 2>

松本明弘 会員

あけましておめでとうございます。

卯年ということで会長に卓話を仰せつかりました。私は12歳で民謡に出会い、地方に行き現地に行き見て習って皆さんに指導するというのを始めました。今日はお祝いですので、皆さんに踊りを披露したいと思います。踊りの世界は9割が女性でございます。今日は青森県の「南部俵積み唄」をやります。

踊る前に一言お話させていただきます。「テロップ」これは僕の12歳のブロマイドなのです。10年間芸能活動をし(水谷豊さんは一つ下です)、その後印刷会社を設立して今年で40年です。今は会長に納まっています。月曜から木曜まで東京の印刷会社に行き、金・土・日曜日は住よしグループへ行っています。6年で17万キロ走りました。そんな生活ですが、お蔭さまで家族は皆幸せです。妻は記代子と言います。生まれ変わってもまた一緒になろうねと約束しました。だから「浮気」なんていう言葉は知りません。

では、話ばかり長くなっても仕方ありませんので踊ります。民謡というのはうまく踊らなくて良いのです。楽しく踊れば良いのです。僕だけ楽しんで仕方がないので皆さんにもお手伝いしていただきたいのです。手拍子をお願いします。リズムはゆっくりで構いません。そう、今日はとっても良いお客様です。では、どうぞよろしく願いいたします。(ここから、南部俵積み唄の踊りをご披露いただきました。)



<閉会・点鐘> 13:30 前田 会長

週報担当 長谷川 誠 剛